

令和3年度
山口県学力定着状況確認問題
結果について



令和3年12月

山口県教育庁義務教育課

目 次

I	実施概要 P	1
II	教科の問題に関する結果 P	2
	1 小学校		
	(1) 国語 P	2
	(2) 算数 P	6
	(3) 理科 P	10
	2 中学校		
	(4) 国語 P	14
	(5) 数学 P	18
	(6) 理科 P	22
	(7) 英語 P	26
	3 設問別正答率一覧 P	30
III	児童生徒質問紙調査の結果 P	41

I 実施概要

1 目的

児童生徒の客観的な学力状況の経年的な把握と分析を通して、課題解決に向けた指導の工夫改善等の取組の充実を図る全県的な検証改善サイクルを確立し、県内全ての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図る。

2 実施期日

令和3年10月20日（水）※学校の状況に応じて、10/18～10/22の期間に実施

3 実施内容

(1) 実施対象等

学 年		実施人数	内 容 (時 間)	
小 学 校	第5学年	10,845人	国語、算数、理科(各40分)	及び質問紙
	第6学年	10,689人	国語、算数(各40分)	及び質問紙
中 学 校	第1学年	10,043人	国語、数学(各45分)	及び質問紙
	第2学年	9,927人	国語、数学、理科、英語(各45分)	及び質問紙

(2) 教科の問題について

○以下の①、②による総合的な問題とし、記述式の問題を一定の割合で出題する。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題

○問題は、調査実施時点までに学習していると想定される範囲とし、問題の程度は、対象学年までの学習指導要領を基準とする。

(3) 質問紙について

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容を問うものとする。

【データの処理について】

○各学年の実施人数について

・各学年の実施人数は、教科の問題及び質問紙を実施した児童生徒数の最大値を示している。

○平均正答率の算出方法について

・各教科の平均正答率は、問題を実施した全ての児童生徒の解答結果から算出している。

・学校の教育課程上の理由等により一部の問題を実施していない児童生徒についても、全体に含めて算出している。